

臨床福祉専門学校
理学療法学科 平成 26 年度 第二回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成 27 年 3 月 24 日（火） 19：00～20：00

場所：臨床福祉専門学校 3F 会議室

出席委員及び所属

中村 岳雪（東京都理学療法士協会理事）

下河辺 雅也（山田記念病院 技師長）

石垣 栄司（臨床福祉専門学校 理学療法学科学科長）

神田 太郎（臨床福祉専門学校 理学療法学科副学科長）

萬崎 保志（臨床福祉専門学校 事務次長）

樋口 豊朗（臨床福祉専門学校 事務局主任）

（趣旨・概要・学科長挨拶）

入学した学生が実習に出た際の悩み、もしくはモチベーション低下の防止の為に入学後早い段階で国立障害者リハビリテーションセンターの協力の元、見学実習を行う。可能であれば夏の見学実習の後で改めて現場で働く PT の先生方と触れ合う機会を設けたい。（石垣）

（意見交換）

1. 新入生向け「見学実習」について

受け入れ経緯の問題点は特になく、希望を伝えれば日程調整は可能。

現場を知るという形で学生の為にも良い、現場を知ってモチベーションを上げられるのが理想であり、見学実習後に学生同士のディスカッションを行う方が良い。（中村委員）

カリキュラム上別の科目である「基礎理学療法学」の授業でディスカッションの場を設ける予定。（石垣）

入学早々に現場見学を行うことは、PT の職域を知るためにも良い経験になる。（下河辺）

現場で良くある問題点として、学生の質問の内容（仕方）に特徴がある。要点を得ない質問が多い、もしくは質問自体が出来ない学生が多い。（中村）

見学に来る方について、理学療法士の予備知識がない学生が多い。（下河辺）

コミュニケーション力について、理学療法士自体の理解がまだ不明確なのが原因の一つであり、入学時・見学実習時点では補う事はできない。終わった後グループワーク等で学生同士のコミュニケーションを取る上で補っていく必要がある。(石垣)

※H27年度の課題

見学実習を行った後、教育課程編成委員会へのフィードバックについて
総括の時期については学科の方で精査して、次年度の教育課程編成委員会に活かす。

初めて見学実習を行い、理解できる内容のごく少数、終わった段階でそれぞれの疑問点を精査し、改めて夏(予定)に現場の先生と相談の場を設ける。(石垣)